

小中一貫教育の特色を活かした学校づくり ～施設一体型校舎の現状とその分析～

平成25年 2月

国立教育政策研究所 文教施設研究センター



本調査研究における対象施設

■ 極めて多彩な小中一貫教育校の実態

- ・ 構造改革特区制度、研究開発学校 ⇔ 現行制度の中での取組
- ・ 各教科9年間一貫カリキュラム ⇔ 特定の教科における連携
- ・ 特区を活用した独自の教科設定 ⇔ 学習指導要領に沿った教科設定
- ・ 施設一体型校舎 ⇔ 既存校舎の連携型

■ 施設一体型校舎の整備手法

- ・ ①新たに建設、②既存校舎に増築、③既存校舎を活用
- ・ ②や③では既存校舎の改修や渡り廊下の新設を伴うのが一般的
- ・ ③は以前から小中が隣接している場合、余裕教室に収容する場合など

■ 本調査研究における対象施設

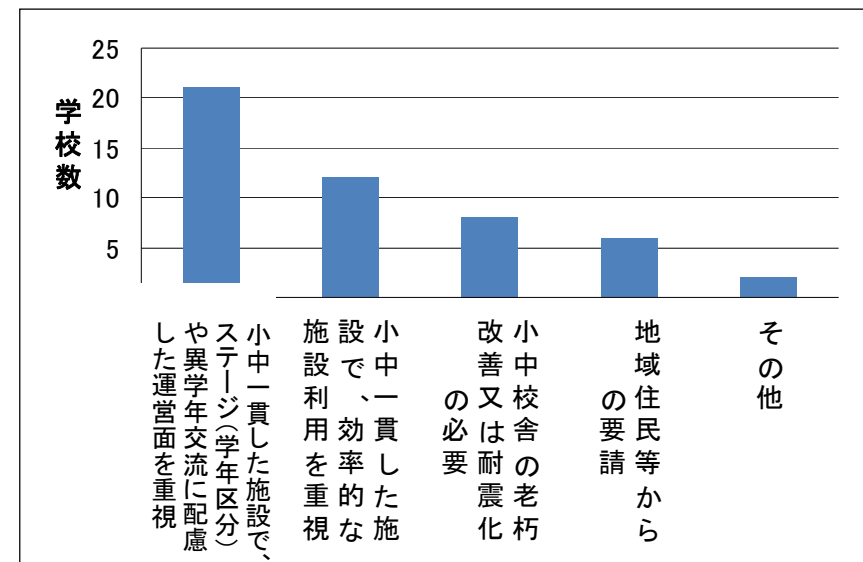
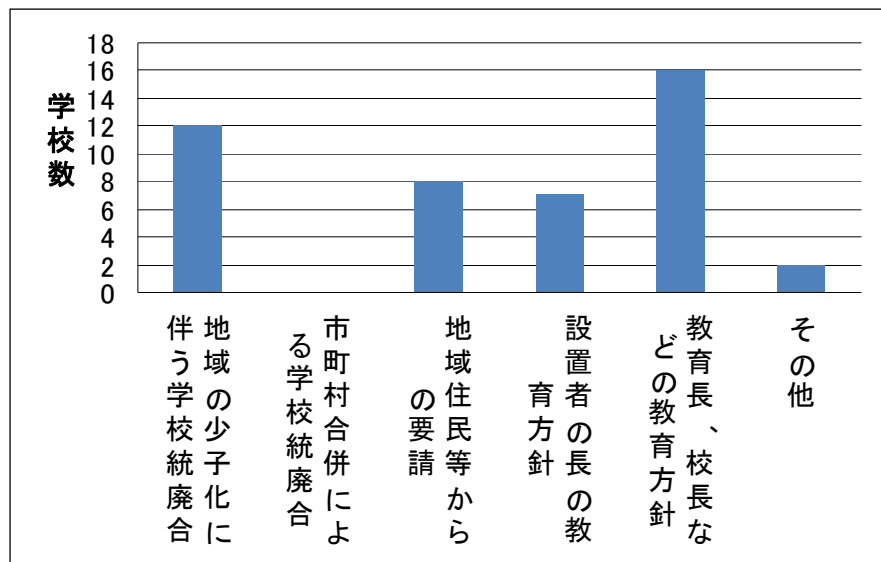
- ・ 制度的根拠よりも施設形態に着目し、施設一体型校舎を対象
- ・ 平成19年10月時点で当センターが確認できた26校でアンケート調査
- ・ この中から10校を選び、現地調査と関係者ヒヤリング
- ・ さらに3校を選び、児童生徒の行動観察と意向調査

施設一体型校舎に関するアンケート調査(1)

■ アンケート調査の概要

- ・平成19年10月時点で当センターが施設一体型校舎を設置済み又は計画中と確認できた26校が対象（公立25校、国立大附属1校）
- ・平成19年11月に調査票を配布、全ての教育委員会から回答を受領

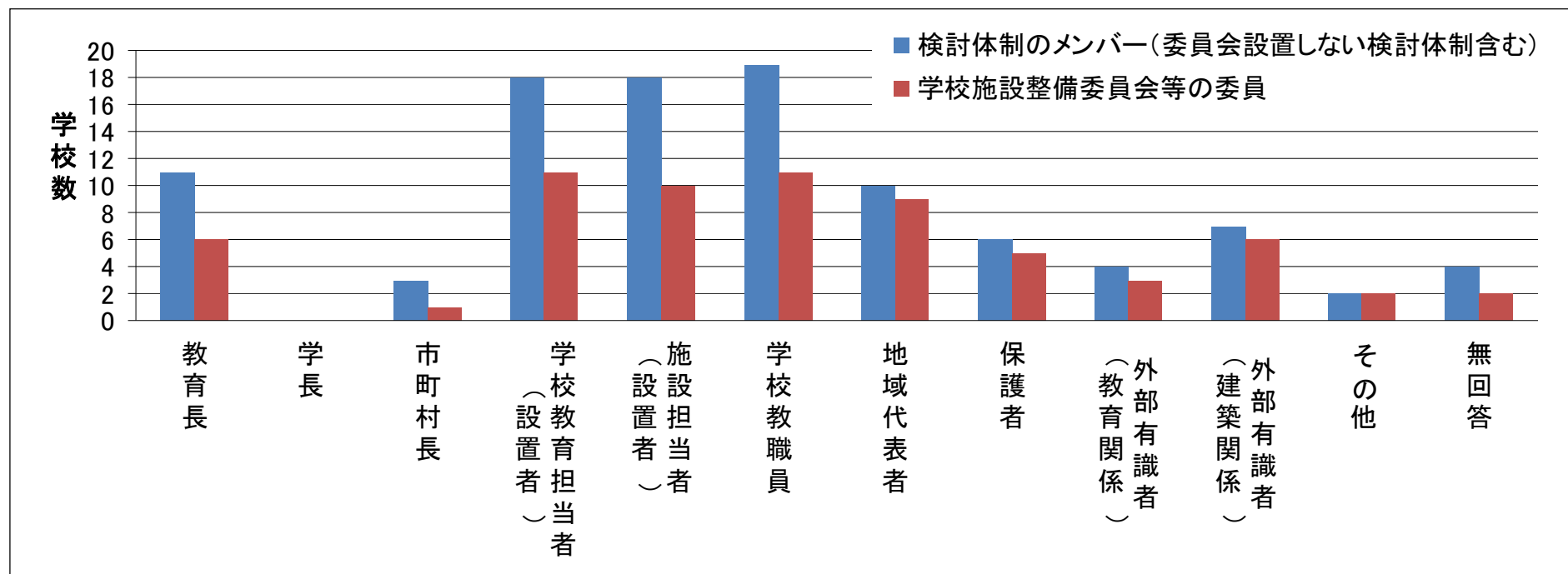
■ 小中一貫教育校の設置経緯、施設一体型とした理由（複数回答）



施設一体型校舎に関するアンケート調査(2)

■ 施設整備の検討体制、検討体制のメンバー（複数回答）

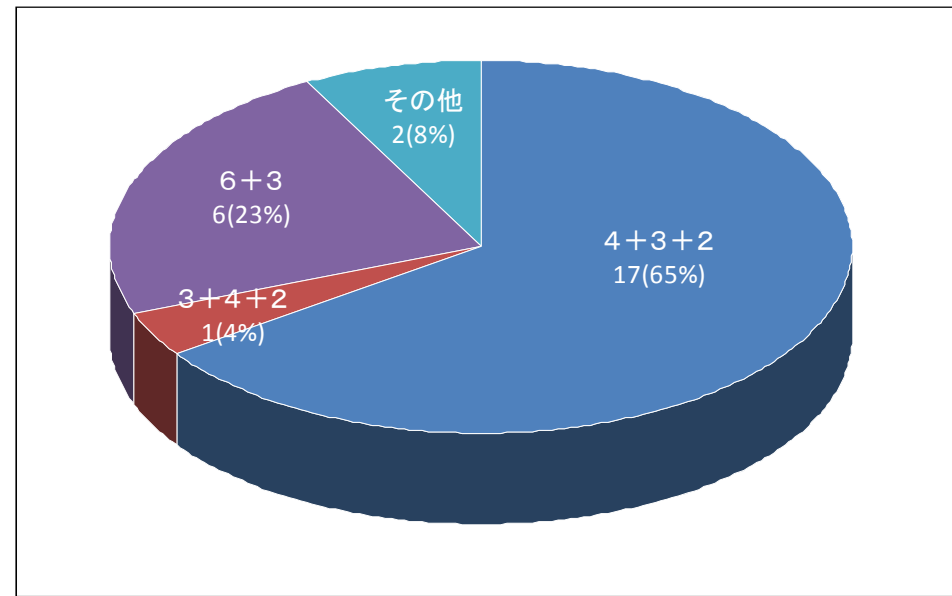
- ・ 学校施設整備委員会を設置して検討 14校（54%）
- ・ 設置者の担当で検討 8校（31%）
- ・ 設置者の学校教育担当者、施設担当者、教育長自ら参加
学校教職員、地域代表者、外部有識者（建築関係、教育関係）



施設一体型校舎に関するアンケート調査(3)

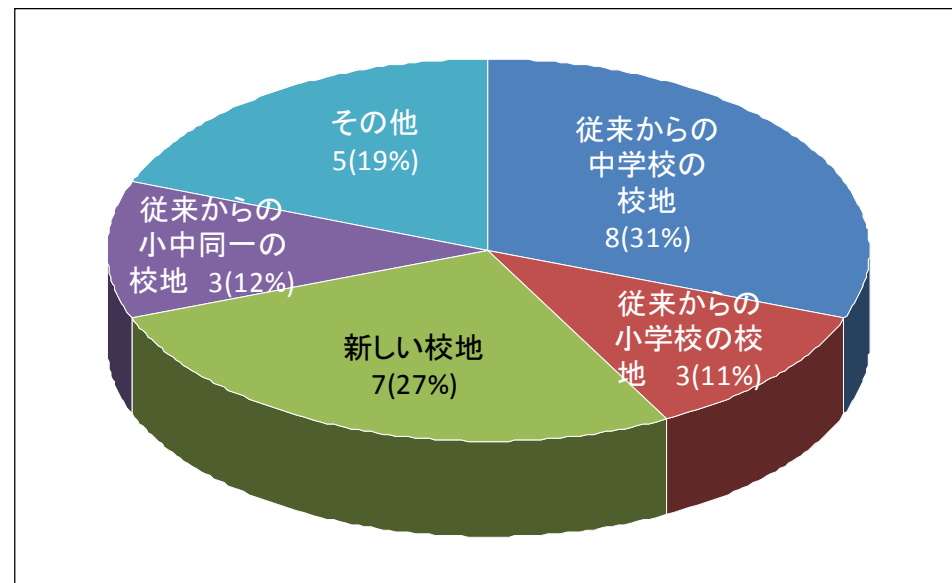
■ 学年区分 (ステージ)

- 「4-3-2」 17校 (65%)
- 「6-3」 6校 (23%)
- 「3-4-2」 1校 (4%)



■ 校地の選定

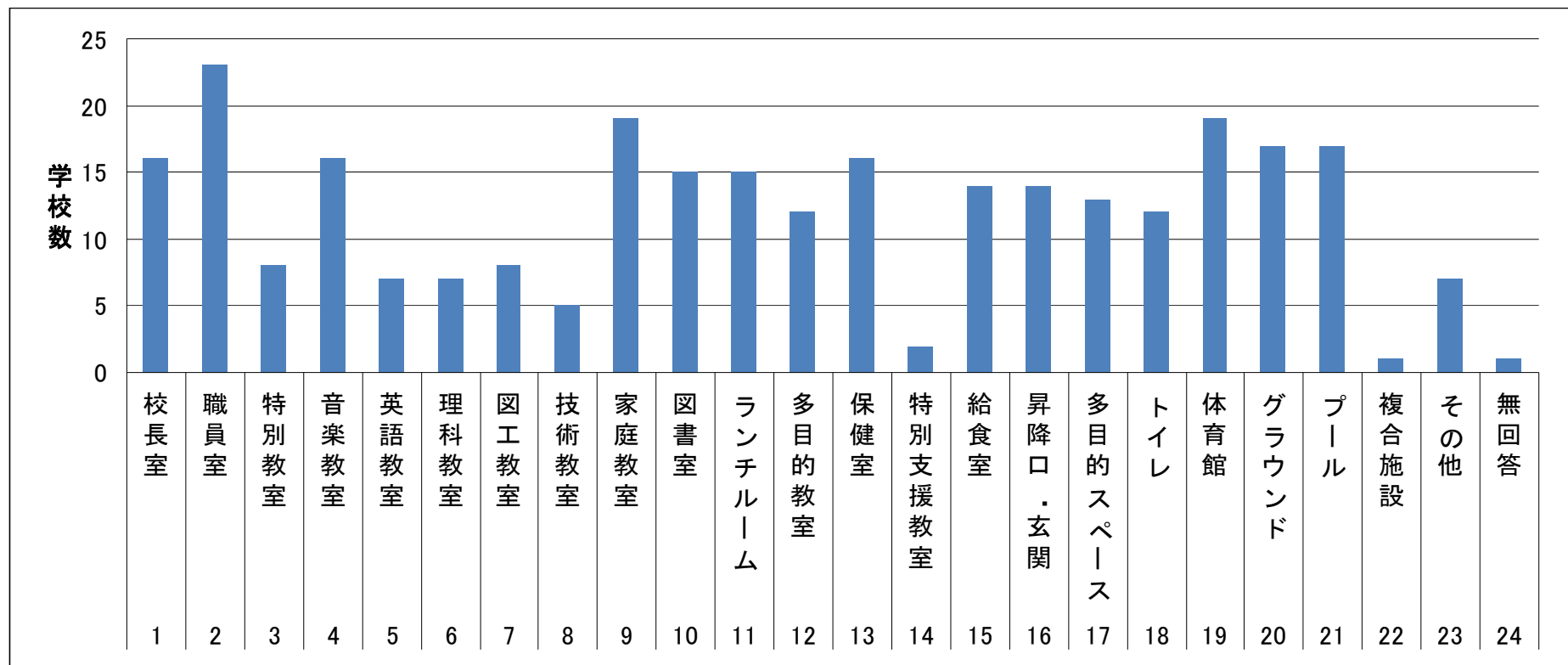
- 中学校の校地 8校 (31%)
- 小学校の校地 3校 (12%)
- 新しい校地 7校 (27%)
- 小中同一校地 3校 (12%)



施設一体型校舎に関するアンケート調査(4)

■ 小中共有化を図った施設（複数回答）

- ・ 共有化とは小中が所有する部屋を相互に利用すること
- ・ 共有化の目的は小中連携の効果をより一層発揮すること
- ・ 共有化がそのまま面積の節約にならないことに留意
- ・ 職員室、保健室、家庭教室、音楽教室、図書室、体育館、グラウンドが上位

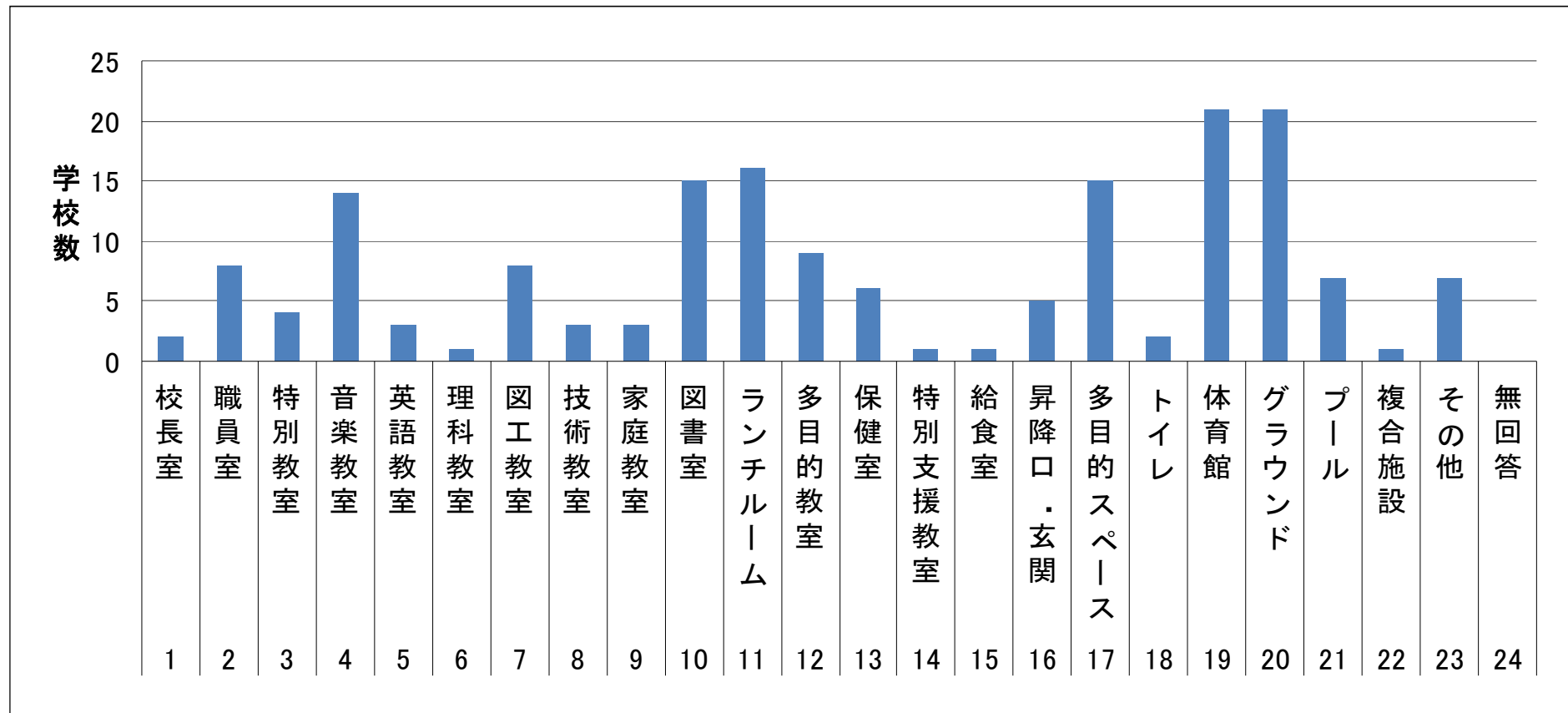


※ 3 特別教室は、4～9の室以外の特別教室をいう。

施設一体型校舎に関するアンケート調査(5)

■ 異学年交流の場（複数回答）

- ・ 小中の異学年交流は小中一貫教育の特色の一つとして重要
- ・ 体育館、グラウンド、ランチルーム、図書室、多目的スペース、音楽教室が上位



※ 3 特別教室は、4～9の室以外の特別教室をいう。

施設一体型校舎の現地調査

■ 現地調査対象校の概要

[学校名(愛称)]	[所在地]	[整備手法]	[学年区分]	[備考]
・ 伊藤学園	東京都品川区	新築	4-3-2	小中一貫教育特区
・ はるひ野小中学校	神奈川県川崎市	新築	4-3-2	
・ 芝園小中学校	富山県富山市	新築	6-3	一貫的連携教育
・ とどろみの森学園	大阪府箕面市	新築	4-3-2	研究開発学校(文)
・ 府中学園	広島県府中市	新築	6-3	
・ 照葉小中学校	福岡県福岡市	新築	6-3	研究開発実践校(市)
・ 豊里小中学校	宮城県登米市	増築+改修	3-4-2	小中一貫教育特区
・ 湖南小中学校	福島県郡山市	増築+改修	6-3	小中英語教育特区
・ 平岩小中学校	宮崎県日向市	増築+改修	4-3-2	小中一貫教育特区
・ 田原小中学校	奈良県奈良市	改修	4-3-2	小中一貫教育特区

伊藤学園(東京都品川区)

■ 小中一貫教育の実施に至る経緯

- 品川区は平成15年に小中一貫教育特区認定
- 平成18年度から区内全域で小中一貫教育への本格的移行を開始
- 中学校の校地に新築し、平成19年度から施設一体型校舎として使用開始

■ 学校概要、施設概要

- 学級数 小学校 15+2 学級
 中学校 11+1 学級
- 児童生徒数 886 名
- 教職員数 90 名

- 校地面積 11,480 m²
- 建物面積 15,282 m²
- 建設年 平成 19 年
- 都心立地のため地上5階、地下2階



伊藤学園(東京都品川区)

■ 学校運営の概要

- ・ 学年区分「4－3－2」に合わせたフロア別のゾーニング
- ・ 5年生から教科担任制、部活動への参加、制服も変わる
- ・ 校時は完全に統一

	学年区分	PTA	ゾーニング	授業方法	運営方式	部活動	校長ポスト	主な行事	校時	制服
1年生	低学年	小学校PTA	1階	学級担任制 (一部教科担任制)	特別教室型	なし	1人	入学式、卒業式、 運動会等	授業の1単位時間45分、 完全同一	低学年用着用
2年生										
3年生										
4年生										
5年生	中学年	中学校PTA	3階	教科担任制	部活動	1人	入学式、卒業式、 運動会等	授業の1単位時間45分、 完全同一	高学年用着用	
6年生										
7年生	高学年	中学校PTA	4階	教科担任制	部活動	1人	入学式、卒業式、 運動会等	授業の1単位時間45分、 完全同一	高学年用着用	
8年生										
9年生										

凡例 : 運営項目別の学年のまとまりを表す。

伊藤学園(東京都品川区)

■ 施設利用状況

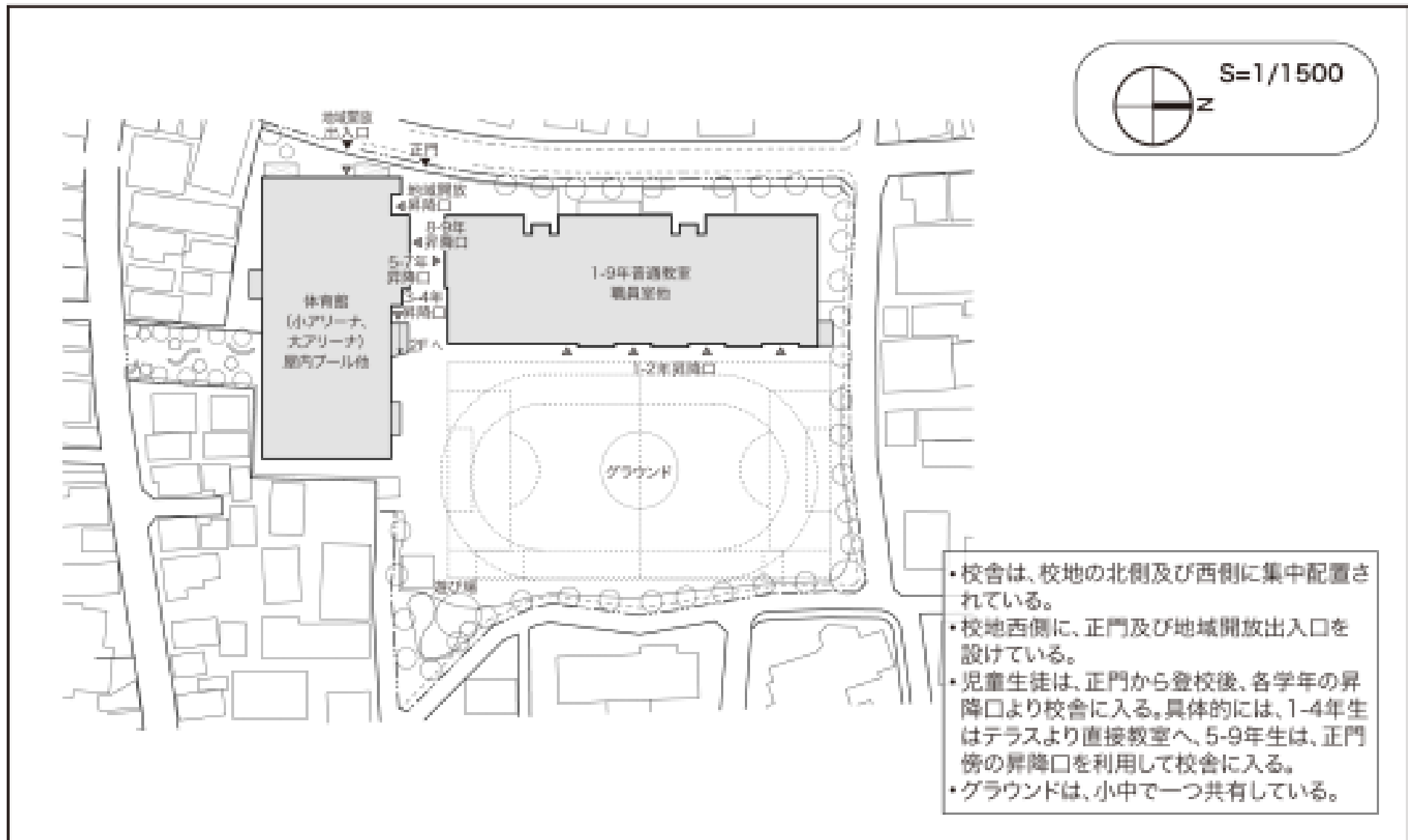
- ・ 4年生までの低学年と、5年生以上の中・高学年に区分
- ・ 音楽教室や図書室は2か所設置、体育館は敷地制約のため重層型

	校長室	職員室	音楽教室	家庭教室	図書室	ランチルーム	保健室	給食室	昇降口	体育館	グラウンド	プール			
1年生	2階	学年区分ごとの座席配置 2階	2階		2階	5階、 定員約200人	1階	民間委託 各階に配膳室	1階	小アリーナ 2階	遊び場	床可動式 体育館上層階			
2年生									2階						
3年生			4階		5階				4階	1階			1階	大アリーナ 地下2階	共有
4年生															
5年生			1階		1階				1階	1階					
6年生															
7年生			1階		1階				1階						
8年生															
9年生			1階		1階				1階						

凡例  : 施設ごとの学年の利用形態を表す。

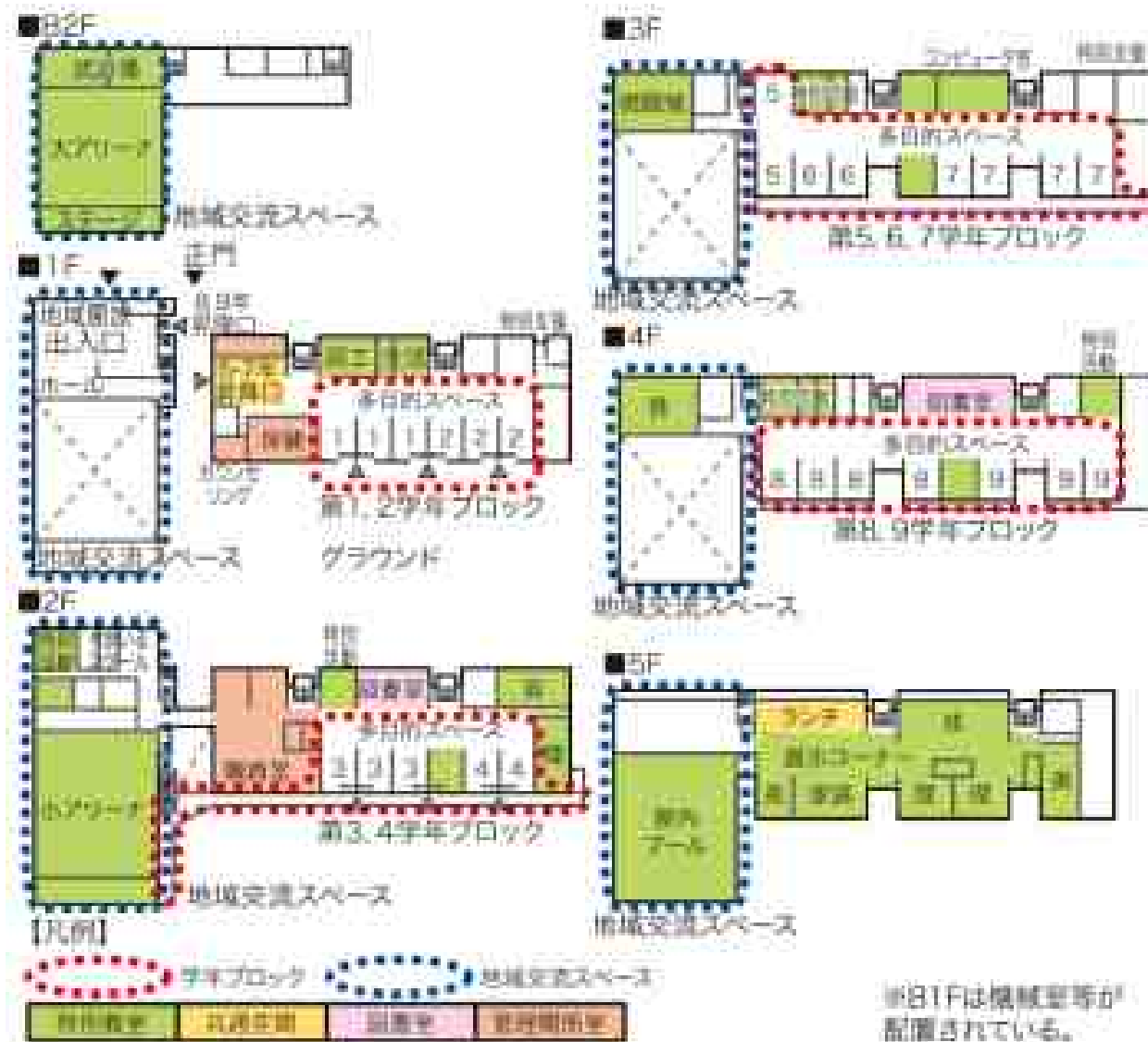
伊藤学園(東京都品川区)

■ 配置計画の特徴



伊藤学園(東京都品川区)

■ 平面計画の特徴



- 職員室(校務センター)
 - 敷地制約のため2階
 - 事務室を1階昇降口横に配置
 - 開放型のカウンター方式
 - 机は学年区分ごとに配置

- 学習関係諸室
 - 各フロアの多目的スペースは学年合同授業や異学年交流授業等の多人数での活動の場
 - 2~4階の学習ルームは少人数授業や習熟度別授業に活用

